

情報通信・エネルギー技術

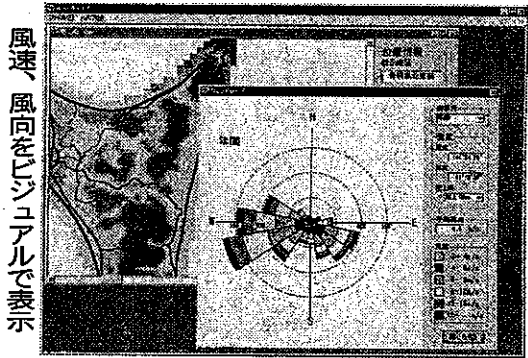
情報処理サービスやソフトウェア開発などを手がけるCRCソリューションズの風力コンサルティング事業が、高い評価を受けている。同社が開発した風力発電支援ソフト「WinPAS」は、高度100メートルまで10分刻みという高精度の風況データを組み込んだもので、既に10社程度のデベロッパーが採用している。また風車の配置方法で独自の評価理論を構築。風力開発地点の風況や発電量に、従来より誤差が小さいコンサルティングを展開する。今後二つの高さの洋上風力発電用に、沿岸部の風況データを提供できる体制も整えた。今後は、風況データのさらなる高精度化を図っていく方針だ。

従来、風力発電の適地タのため、デベロッパー開発では、新エネルギーはコストをかけて風況観測・産業技術総合開発機構測ポールを建てても、期(NEDO)の全国風況待った結果が得られないマップが利用されてきたことも多かった。CRCソリューションが、高度300メートルのデータ

CRCソリューションズ 高精度で風力建設支援

が開発した「WinPAS」が解析した「WinPAS」は、保有データの本全国の風況を約1キロ毎、かつ高度100メートル、データあたっては風力発電施設が豊富を誇る。1年間のメッシュで、

気象解析で適地絞り込み



00分まで10分刻みに把握。このデータを国土地理院発行の国土数値情報と重ね合わせ、パソコン上の気象データ解析に取り、風の強さ、方位をデジタル的に表示するため、適う。

こうしたソフトに加えて、コンサルティングに必要で、精度の高い発電量予測も提供している。洋上風力向けの国内沿岸部のデータも既に販売できる状況にある。

同社では今後、5年分の「マイクログリッド」(配置)評価について、地形乱流や、風車の後ろに発生する乱流を意味するウェイクの評価で独自の理論を構築し、実際のウインドファームモデル

風車配置に独自理論構築

ケースとして検証した。このデータと自社の風況データに基づき、これまでに候補地で実施した発電量推定では、実データに比べ評価誤差は3〜6%にとどまっており、コンサルティングでも高い評価を受けている。

CRCソリューションズは、気象データの解析を通じて、落雷統計や緊急時放射能影響予測システムなど、エネルギー事業に深くかかわっている。風力発電コンサルティング事業としては、構想段階の風況観測から、設置後の発電量の評価予測まで、すべての段階を手がけている。